



回収品を熱エネルギー代替として再資源化する

で、回収、中間処理、再資源の仕組みを構築する。

二トリが昨年12月から1月にかけて神奈川県8店舗で回収したカーペットや敷きふとんをタケエィで破碎、同社栃木工場で再資源化する。実証実験は14日から始まっている。

二トリの発表によると、カーペット・敷ふとんはユーザーが処分場に困る製品の1位、2位を占めるという。二トリは今後、カーペット・敷ふとんを全国全店舗規模で回収、再資源化する仕組みを構築する。

同社は「二トリとの連携による廃棄物の再資源化を、より広範に進めることで最終処分場の延命に貢献していく」としている。

いられるモルタルやセメントグラウトの製造に最適な製品として展開していく。

早強型

使用

や硬化後の強度特性と、いった性能を従来品よりも格段に向上。適度な粘性があるため、材は同社営業担当まで。

品質は栃木のみならず、日本の国土の根幹をなすものだ。これからも品質確保に精進していつてほしい」と述

さらなるCO₂削減へ

三和石産 再生セメント利用で

三和石産(中田泰司社長)は16日、鹿島建設、竹中工務店、デンカが幹事会社を務める「CUCO(クーコ)」で、同社が保有する残りコン・戻りコン由来の再生セメント「Cem³R(セムアールスリ)」のさらなる二酸化炭素(CO₂)排出量

削減に向けた技術開発を始めると発表した。クーコは、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)による「グリーンイノベーション」(G-I)基金事業/CO₂を用いたコンクリート等製造技術開発プロジェクト」を行うコンソーシアム

で、2030年までに社会実装する革新的カーボンナガティブコンクリートに関する技術開発を進めている。同社は2006年から残・戻りコンの有効利用に向けた研究を開始し、東海大学の笠井哲郎教授の指導を得ながらスラッジ固形分の

性状データを収集してきた。12年からは鹿島建設との共同研究がスタートし、16年には再生セメントを利用した環境配慮型コンクリートを「エコクリートR」として実用化した。鹿島建設とは日本建築総合試験所の技術証明を取得したほか、

同社は17年に普通強度領域で再生セメントを結合材料の30%まで使用できるように生コンJIS(A5308)の認証も取得していた。

再生セメントのCO₂排出量は現状、普通セメントに比べ約8分の1となっている。同社は今後、再生セメントの製造工程の変更にどさらにCO₂排出量を削減させた材料に改良し、それを利用したカーボンナガティブコンクリートの技術を開発していく方針。

静岡県生コンクリート工業組合(野村玲三理事長)、静岡県生コンクリート品質管理監査会議(中村光議長)は22日、静岡市内のホテルで品質管理監査結果報告会を開いた。約60人が参加した。

野村理事長は、同日開催されたワールドベイスボールクラシック(WBC)で日本が優勝したことにあられ「今日は何かいいことがあると思うてやってみたら」と述べた。品質監査は工組の最も大きな事業になっていることや、コロナ禍により監査員以外に工場への立会いができていないことなどについて説明。来年度は立会い監査の再開を期待するとしてた。

中村議長もWBCにオプザーバーとして、静岡理工科大学の西田孝弘教授が同会議に参加している。



藤原議長

栃木品監

32工場に合格証交付 品質確保へ一層精進を

栃木県生コンクリート品質管理監査会議(藤原浩己議長)は22日、宇都宮市内のホテルで合格証交付式を開いた。2022年度の監査は正監査員が栃木県生コンクリート工業

都宮大学教授)は17日、宇都宮市内のホテルで合格証交付式を開いた。2022年度の監査は正監査員が栃木県生コンクリート工業



岩見理事長

静岡品監

74工場に合格証交付 公正な評価で業界応援へ



野村理事長

勝したことにあられ「今日は何かいいことがあると思うてやってみたら」と述べた。品質監査は工組の最も大きな事業になっていることや、コロナ禍により監査員以外に工場への立会いができていないことなどについて説明。来年度は立会い監査の再開を期待するとしてた。

言及し「日本選手のフェアプレーが賞賛を集めている。日本中が野球選手を応援しようとして、生コンも監査制度によってフェアに評価してもらってことで、業界を応援する人が増えるようになればいい」とまとめた。

今年度の監査は前年比4工場減の74工場(76プラント)に対して実施。このうち、減点のあった工場は7工場だった。全工場が減点20点以下で合格となった。また今年度からオプザーバーとして、静岡理工科大学の西田孝弘教授が同会議に参加している。

監査結果報告の後、中村議長から工組の各